

# 通信

NO. 100  
2021年5月号

## ビジネス総研株式会社

福岡市博多区博多駅前4丁目  
33番11-702号  
☎092-409-4177

スタ  
コラ

## 立憲主義は 国の根幹

5月3日は憲法記念日。国の根幹をなす憲法について改めて考えてみた。

この数年、安倍内閣と引き続く菅内閣は、「モリ・カケ」の文書改竄、やりたい放題の「桜」、憲法違反の「学会議会員の任命拒否」など、立憲主義とは相いれない暴挙が続き、批判が広がり、「新型コロナウイルス」への対応は“場当たりの”で、そのために休業に追い込まれている飲食業などへの補償を求める声を無視し、国の財政を国会の承認を後回しにして、“自分の懐”であるかのように動かしている。

日本国憲法は「国の最高法規」として11章103条で構成されている。

この憲法は、国民が守らなければならない法律と考えている人が多いが、もともと、憲法の構成は、国民の基本的な権利を保障することと公権力の専横を縛る機能を持つものである。

憲法は、第1章で“象徴とし

## 第35回記念 日洋展

## 応募作品 ちっご川・春 (油彩 F100)

具象絵画の登竜門日洋展に出品した作品です。今回は、7回目の出品。100号の油絵にしました。

5月に審査が行われ、入選すると5月26日から6月7日、他の入選作品と一緒に国立新美術館で展示されます。

その後、8月3日～9日、福岡市美術館で開催される福岡会場で展示される予定です。



ての天皇”を規定し、第2章で“戦争放棄と戦力及び交戦権の否認”を規定したうえで、第3章「国民の権利及び義務」は、最も多くの字数を割いて国民の権利を具体的に規定し、そのうえで、公権力の国民の権利に対する侵害について厳格に制限を設けている。

第4章「国会」は、「全国民を代表する選挙された議員」で組織された「国権の最高機関」「国の唯一の立法機関」と規定し、5章「内閣」は、行政権の帰属と、そのおこなう施策は、国会に報告し、承認することを義務とするものとしている。

さらに、内閣総理大臣は、国会に議案を提出し、一般国務及び外交関係について報告することとして国会への報告と承認を義務付け、内閣の行政権は、国会の承認なしには機能しない権限としての縛りをかけている。

第6章は、司法権の独立性を規定し、第7章は「国の財政」は、国会の決議に基づき行使し、国会の承認と国会及び国民への報告を義務付け、第8章は地方自治権を規定している。

第9章は“憲法改正の発議”と“国民投票”による承認について規定し、第10章では、改めて最高法規としての憲法は、“基本的人権”が何人も侵すことができない永久の権利として保障するものであり、さらに、天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、憲法を尊重し擁護する義務があることを規定している。

こうしてみると、“改憲の旗振り”の先頭に立つ安部前首相とその後継者である菅首相も異常さが際立っている。





映画大好きな山ちゃんが、毎回、自分の言葉で執筆します。

## グリーンブック 2018年



監督: ピーター・ファレリー  
 出演: ヴィゴ・モーテンセン  
 マハーシャラ・アリ  
 リンダ・カーデリーニ

世界中で大ヒットを記録し第91回アカデミー賞3部門を受賞。

舞台は人種差別が色濃く残る1960年代のアメリカ。白人運転手と黒人ピアニストの友情の実話。

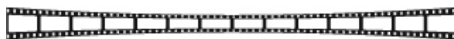
物語のモデルとなったのは、黒人の天才ピアニスト、ドン・シャーリーと彼の運転手だったトニー・バレロンガ(トニー・リップ)の二人が、あえて差別の色濃い南部へのコンサート・ツアーへ、グリーンブック(黒人専用ガイドブック)を頼りに繰り出すのだが……

旅の終わりに待ち受ける奇跡とは…?

エンドロールでは、実際の人物たちのその後も紹介されるので、最後までチェックを=

映画の後半で、アラバマ州・バーミングハムでVIPとして、

招待されているにも係わらずレストランでの食事を拒否され、黒人専用のレストラン〜“オレンジ・バード”に行くはめに、そこでの演奏シーンが特に印象深く感動した。…



### くまさんの コンサル日誌



似顔絵作家の小西みどりさんに描いていただきました。

## 「通信」100号

ビジネス総研「通信」は、平成25年2月号の第1号から、毎月発行し8年超え、今月号で100号を迎えた。

第1号には、「太宰府天満宮の飛梅が8分咲き」の写真と記事、ロンドンパラリンピックの金メダリストの浦田理恵さんの話、「山ちゃんの映画観てある記」も連載を開始した。

10号(H25.11)ではA社の10周年記念祝賀会、20号(H26.9)では「中秋の名月」の写真、30号(H27.7)には、伐採寸前の桧原桜を保存するきっかけを作った土居善胤さんの著書「花かげの物語」を紹介している。

40号(H28.5)には、庭の睡蓮の開花と野ばらの写真。50号(H29.3)では、東日本大震

災から6年、東北3県で進む復興の様子。60号(H30.1)では、年頭のあいさつで古希を迎える私の心情を述べている。

70号(H30.11)では、流行語大賞に、「そだね」や「もぐもぐタイム」などのスポーツ分野からの一方で「首相案件」などの政治批判の言葉のノミネートも。80号(R1.9)では、生涯現役であったF社のT社長への追悼、90号(R2.7)では、コロナウィルス感染症の拡がりの中で、「コロナ終息は政治の責任」との記事も。

こうして振り返ってみると、その時々話題や季節的な写真などを掲載してきた。

第1号の編集後記で「身近で、役に立つ通信として、毎月発行を目指します。」との公約が果たしているかの評価は、皆さんにお任せするとして、今後とも、発行し続けようと思う。



## 編集後記

### 麦秋 2021

健康管理のため  
に万歩計  
をぶら下  
げて散歩を始めた。



近所の麦畑がすっかり色づき、ひばりのさえずりが聞かれ、見上げると、羽ばたく姿が青空に小さく見える。